

6月6日
本部申23号

中央本部 2019年度夏季手当に関する申し入れ 第2回交渉を行う! その2

インバウンドの
増加に関して

組合の主張
会社の主張

- 定期外収入は新幹線・在来線の関東圏において、**インバウンドが10億円増**と好調だ。
- ジャパンレールパスの引換、お客さま案内に苦勞している。**外国語を学習するなど努力**して、収入に貢献している。
- 遺失物対応も増加した。オリンピック・パラリンピックで更に増えれば対応に不安がある。
- 営業職場の苦勞を把握していただきたい。

- マンパワーによるサービス提供は必要。コストも見ながら外国語対応の設備を導入している。
- 仕事をする上の不安はあると思う。タブレットも英語圏だけでなくアジア圏にも有効に使えるようにしている。さらに投資していく必要がある。
- 英語圏以外に**東南アジア圏の方々も苦勞**している。**その頑張りが連続した増収に結びついていることには感謝**している。

還元向上に
ついて

組合
会社

- 株主配当について、2020年3月期に現行の1かぶあたり50円から165円と1.5%上がる予想である。
- 一昨年からすれば2.2%上がる予想で株主配当が上がっている。
- **重要なステークホルダーとして、組合員・社員にも還元すべきだ。**
- 会社もステークホルダーは株主やお客さま、当然社員もステークホルダーの1つである。
- 安定して株主を確保するという観点から、取り組んでいくが、社員還元も取り組んでいく。
- 業績や様々な動向を見つつ判断していく。

15万円の
要求について

組合
会社

- 2018年度賃上げにおいて、初任給改訂を行ってきたが6年目以降に課題が残った。
- 2019年度賃上げは、基本給に所定昇給額6分の1の額で妥結した。職制、基本給の高い社員が上がっている認識だ！
- **世代交代の中、若手の努力に対する評価を上げて、厚くしバランスを保つべきだ！**
- 様々な観点で考えるべきである。
- 過去若年層に関して一定の待遇を図るという観点から、定額を加算することも行ったことがあるがメリット・デメリットがある。
- **バランスを見て総合的に判断する**必要がある。

組合の主張

JR東労組は、変革2027が示されて以降、諸施策に対して時間軸を意識してスピード感を持って組合員と積極的に議論をし、建設的な労使議論で施策に向き合い、各種施策を担ってきた。一人ひとりが主体的に考え変革2027に向かい、自己啓発にも積極的に挑んできた。また働き方改革に伴い、様々な課題を想定し問題解決に向けて、現場第一線で働く組合員が積極的に安全とサービス品質を高めるための努力をしたことに対し、会社は誠意を持って応えるべきである。人材育成と優秀な人材確保は重要な課題である。収益を確実に伸ばしてきたことから、支払い能力は十分にある。**全組合員の様々な努力と苦勞に報いるために、基準内賃金の3.1ヶ月+5万円の満額回答を強く要求する!**

会社

変革2027や施策でいろいろ取り組んでいることやMy Projectの話もしてきた。**苦勞や今後の期待について今日の議論も踏まえ、総合的に勘案していく。**支給日の要求もいただいている。これを踏まえて、しっかりと検討しあまり時間を掛けず回答したい。

会社は、全組合員の苦勞と努力にしっかり応え、要求満額の回答をすべきだ!